

KS601522 新請求書（事業所送付用） 帳票分析と帳票イメージ

対象：KS60152P（新請求書電子帳票出力・エコデリバー分）／出力：OUTFIL2 SYSOUT=(E, KS601522, 99) DCB=(RECFM=FA, BLKSIZE=133) ／1行133バイト（ASA+132桁）・50行／ページ

資料	KS60152P.pl1（2,274行）、コピーブック SQHAIDAA〜D／SSYUPRNT／CORPOMAN／DDPTENMS、DAISEQ4J.jcl（KS60152P ステップ L579〜L595）、既存の KS60151P_KS60152P_差異分析.md
作成	作業者B 2026-10-15
表記	「LOO」は KS60152P.pl1 の物理行（JCL は「JCL LOO」）。桁=印字桁（ASA を除いた1〜132桁。レコード上のバイト位置は桁+1）。推測を含む記述には（推測）と付ける。帳票イメージは架空データ。

目次 1. 概要（本ページ） 2. 印字行の定義表 3. 1行目の店所CD・2行目の決め方 4. 改ページ・行数制御 5. 帳票イメージ（4ページ） 6. 注意点・要確認事項

要点

- 優先印刷マスター（VKSYUPR）に登録がある顧客の請求書を、事業所へ配信するための電子帳票。明細不要（UPRNASKB='6'）の顧客は出ない。
- 1行目33〜36桁の店所CD が A-SP00L の振分けキー。ALTFILE に無い店所で自店所出力でなければ未収管理店（LKN0010）に置き換わる。
- 2行目126〜132桁に集約代表コード（VKCORPO の CORPZAND）。ただし同じ荷主の2回目以降の見出し1では自分の荷主CD になる（D-11）。
- 3〜50行目の本文は KS601521／523 や KS60151P の送付用と同じロジック。

1. 概要

1.1 用途

ソース冒頭の機能概要に「優先印刷マスターに有る顧客は事業所出力、無い顧客はインフォコム、ただし不要顧客はどちらも出力しない」（L8〜10）、「電子帳票振分のために配信店所コード表示」（L12）とある。KS601522はこのうち事業所出力分で、1行目の店所CD（「A-SP00L 振分用」L650）で配信先の事業所が決まる（推測：振分け定義は A-SP00L 側）。

入力は TEMP.DAISEQ4J.WORK0700（JCL L583。KS60135P で郵送対象店所に絞り、訂正データを除いたものを KS60144P が帳票レコードに編集）。

1.2 出力条件

条件	判定	根拠
荷主CD（SQHASQNO 上位7桁）が VKSYUPR にある	READ 成功（VS_SW='1'）	L566、L575〜576
UPRNASKB ≠ '6'（明細不要でない）	OUT_SW='2'	L579〜581
OUT_SW='2' の請求書の行だけ OUTFIL2 に書く	すべての WRITE が OUT_SW で分岐	L689〜698、L727〜728、L773〜779 ほか

1.4 他の帳票との違い

項目	KS601522（本帳票・OUTFIL2）	KS601521（インフォコム・OUTFILE）	KS601523（インフォコム送付用・OUTFIL3）	KS601512（KS60151P 送付用）
対象顧客	VKSYUPR に有り、UPRNASKB≠'6'	VKSYUPR に無い顧客（2本に同じ内容を出す）		UPRNASKB≠'6' の全顧客（VKSYUPR 無しも含む）
1行目 店所CD（33～36桁）	発行店 SQHATNCD、または未収管理店 MISYU_TC（S3 の判定表）	代表扱い店 CORPZDTN（VKCORPO 無しは発行店）L680	発行店 SQHATNCD L683	KS601522 と同じ規則
2行目（126～132桁）	集約代表コード（D-11 あり）	集約代表コード（毎回 VKCORPO を読み直すので D-11 は起きない）		空白（西暦案内文。現データでは空白）
ALTFILE（SEQPRTNC）の効果	あり（店所CD の置換判定）	なし		あり
3～50行目の本文	同じロジック（見出し2、検品、サーチャージ、明細、小計・合計、改ページ制御）。差異分析 S3.3 で行単位の一致を確認済み			

1.3 出力されない顧客・レコード

対象	どうなるか	根拠
VKSYUPR に無い顧客	OUT_SW='1' → KS601521／KS601523 に出る（本帳票には出ない）	L572、L676〜686
UPRNASKB='6'（明細不要）	OUT_SW='0' → どの帳票にも出ない。1行目57桁の'#' 設定は残っているが使われない	L579〜580、L655〜657
見出し（SQHANLIN=00）で SQHADTID が5・6 以外	何もしない	L1260
計レコードで（90/98,DTID=3）・（91/99,DTID=3）・（99,DTID=9）以外	何もしない	L1407、L1850
明細で SQHADTID≠0	何もしない	L2145

2. 印字行の定義表

桁=印字桁（ASA を除く1～132桁）。漢字項目は S0（X'0E'）／SI（X'0F'）が前後に1桁ずつ付く（表の「S0 n」はその桁）。数値の編集は、PIC 'Z...' はゼロを空白、負数は別定義の '----9' 編集（例：OT7HUNT_M、MEI_KOSU_D）で '-' を付ける。

行	対象	桁	項目（変数）	編集元（入力項目・マスター）	編集ルール	根拠
1～2行目：見出し1（SQHANLIN=00・SQHADTID=5）。全ページ共通。OUT_1（L101～130）／OUT_2（L131～134）						
1	全	ASA	OT1ASA	－	'1'（改ページ）。見出し1のたびに改ページする	L563
1	全	2～8	荷主CD OT1NICD	SQHASQNO → WK_SQNO（12桁）の1～7桁（SQNO_1_7）	そのまま	L564、L600
1	全	11・17	仮締の括弧 OT1KAS1／2	SQHAKMKB	1（本締）＝空白、それ以外（仮締）＝'（' と '）'	L605～615
1	全	12～16	枝番 OT1SQNO	WK_SQNO の8～12桁（SQNO_8_5）	99999 のとき '-----'	L602～604
1	全	18～31 （S0 18）	店所略称 OT1ATNM	VKTENMS.VETNSRNM（キー SQHATNCD）	店所CD が前回読んだ店所と違うときだけ READ。該当なしは '？？？'	L617～626、L649
1	全	33～36	店所CD OT1TNCD	SQHATNCD／MISYU_TC（LKN0010 の戻り）	PRTN_FLG='0' かつ JITN_FLG='0' なら MISYU_TC、それ以外は SQHATNCD（\$3）。A-SPOOL の振分けキー	L650、L689～697
1	全	51～52	月 OT1MMM	SQHAYYMM の1～2桁	SQHAEYMD=250105 のときだけ '01' 固定	L651～653
1	全	57	明細不要マーク OT1MHKB	－	'#' は OUT_SW='0' のときだけ設定。本帳票では常に空白	L562、L655～657
1	全	97～98／100～101／ 103～104	期間開始 年・月・日	SQHASYMD（YYMMDD）	年は西暦下2桁のまま（2000年対応の変換はコメント化）	L659～666
1	全	111～112／114～115／ 117～118	期間終了 年・月・日	SQHAEYMD	同上	L667～674
1	全	128～131	ページ OT1PAGE	SQHANPAG	'ZZZ9'（請求書内のページ番号）	L675
2	全	126～132	集約代表コード OT2HICD	DISKEY ← VKCORPO.CORPZAND（キー 荷主CD）	VKCORPO 有り＝CORPZAND、無し＝自荷主CD。同じ荷主の2回目以降の見出し1では VKCORPO を読まず自荷主CD（D-11） （\$3）	L566～601、L697
2	全	1～125	－	－	空白（西暦表示の案内文 OT2KOME はコメントアウト済み）	L132～137
3～12行目（1ページ目）：見出し2（SQHADTID=6）で SQHBNPAG≤1 のとき（L785～1200）						
3	1P	－	（空行）	－	4行目（OUT_4）の ASA が '0'（2行送り）なので3行目が空く	L796
4	1P	4～6・7・8～11	顧客郵便番号 OT4PSN1／PSNS ／PSN2	SQHBYYNN（7桁）／SQHBYYNO（旧5桁）	新番号が空白・オール0以外なら 'NNN-NNNN'。旧番号は先頭2桁が '00' なら3～5桁目だけ、それ以外は 'NNN' と、4～5桁目が '00'・空白でなければ '-NN'	L799～824
4	1P	67～78	ご請求額 OT4SQKN	SQHBUNTI + SQHBRYOK + SQHBTAX + SQHBHOKR	本締のみ。'ZZZZ,ZZZ,ZZZ'（負は '----,---,--9'）。仮締は0（空白）	L826～834
5～8	1P	4～31 （S0 3・SI 32）	顧客住所 OT5JYU1～OT8JYU4	SQHBJKA1／JKA2／JKA3（上・中・下段）	JS_EDIT_SUB_RTN：3段を空白2桁でつなぎ、空白の位置で約28バイトずつ4行に分ける。4行目が空なら全体を1行下へずらす（3行の住所は6～8行目、2行なら6～7行目）	L837～858、L2165～ 2226
6	1P	91～99	OT6TENK	－	空白固定	L860
6	1P	112～127 （S0 112）	発行店名 OT6HTNM	SQHBHTEN（14バイト）	8～13バイト目が「（営）」なら1～7バイト＋「 営業所」に置換（例：東中央（営）→東中央 営業所）。それ以外はそのまま	L862～865
7	1P	47～55	運賃 OT7HUNT	SQHBUNTI	本締（SQHAKMKB=1）のときだけ。'Z...' 編集でゼロは空白、負は '----9'。仮締はすべて0（空白）L899～903	L870～872
7	1P	56～63	料金 OT7HRYO	SQHBRYOK		L873～875
7	1P	64～72	小計 OT7HSKE	SQHBUNTI + SQHBRYOK		L876～879
7	1P	73～80	消費税 OT7HTAX	SQHBTAX		L880～882
7	1P	81～88	保険料 OT7HHOK	SQHBHOKR		L883～885
7	1P	89～97	合計 OT7HGKE	UNTI + RYOK + TTAX + HOKR		L886～889
7	1P	98～105	サーチャージ OT7HSER	SQHBTENK		L707～709、L890～897

行	対象	桁	項目（変数）	編集元（入力項目・マスター）	編集ルール	根拠
7	1P	106～117 (S0 106)	店所の郵便番号 0T7TJY1	VKTENMS（キー SQHBTNCD）の VETNPSNA・VETNPSNB	‘〒’+PSNA1～3桁+‘-’+PSNA4～5桁+PSNB。店所が前回と違うときだけ READ、該当なしは店所情報を空白	L904～916
8	1P	107～128	店所住所1 0T8TJY2	VETNADNM の2～23バイト	そのまま（S0 106・SI 129）	L917～919
9	1P	107～128	店所住所2 0T9TJY3	VETNADNM の24～45バイト	同上	L920～922
10～12	1P	4～31／4～31／4～19	荷主名 010HNM1／011HNM2／012HNM3	SQHBHEAD（法人格）・SQHBNAME	NM_EDIT_SUB_RTN：法人格6バイト+名称1（40）+空白2+名称2（20）を空白の位置で28／28／16 バイトに分ける。2・3行目が空なら1行目を2行目へ、2行目だけ空なら3行目を2行目へ繰り上げる。S0/SI は全角名（先頭 X' 0E' ）のときだけ付ける	L923～964、L2228～2272
10	1P	47～94	銀行1 010BAN1	VKBANKM（キー SQHBBANK+SQHBTNCD）の銀行名・支店名、SQHBKONO、SQHBKOBA	1銀行（SQHBBAN1=0）：銀行名+空白2+支店名（49～）。2銀行：銀行名・支店名+口座種別（普通／当座）+「口座No.」+口座番号7桁（87～93）。名称の長さ（I<25／<29／<31／それ以上）で4通りに詰める。マスターに無ければ空白	L966～1057
10	1P	107～128	店所住所3 010TJY4	VETNADNM の46～67バイト	そのまま	L1138～1140
11	1P	47～94	銀行2 011BAN2	1銀行：SQHBKONO・SQHBKOBA／2銀行：SQHBBAN1・SQHBKON1・SQHBKOB1	1銀行：口座種別（S0 69・70～73）+「口座番号」（76～83）+口座番号7桁（86～92）。2銀行：2つ目の銀行を10行目と同じ形式で	L1005～1017、L1059～1136
11	1P	105～128	店所TEL 011TTEL	VETNTLNO	空白7桁+‘TEL:’+電話番号（TEL：は112～115桁）。店所1301 だけ固定の番号（ハードコード）	L1142～1149
11	1P	129	振込区分 011FURI	SQHBTKB3	1 なら ‘*’	L1152～1154
12	1P	22～23・25～36	顧客TEL 012TEHL／012TELN	SQHBDTEL	‘Tel’（S0 21・SI 24）+電話番号12桁	L1156～1157
3～12行目（2ページ目以降）：見出し2で SQHBNPAG>1 のとき（L715～784）						
3～9	2P～	－	（空行×7）	SPACE	郵便番号・住所・金額・店所・銀行は出さない	L718～733
10～12	2P～	4～31／4～31／4～19	荷主名だけ 010PNM1／011PNM2／012PNM3	SQHBHEAD・SQHBNAME	1ページ目と同じ分割・繰り上げ。ただし S0/SI は全角・カナに関係なく常に付ける	L734～760
13～14行目：全ページ共通（L1202～1258）						
13	検品	13～20／49～56／84～89	MIDK_1	SQHBKENP=1	「*＊検品」「検品個数」「検品料」（検品時の見出し上書き）	L260～269、L1202～1224
14	検品	13～44／48～57／59～83	MIDK_2	同上	「*＊月日 *＊*＊ *＊*＊*」「有り 無し」「*」×25	L270～279
13	通常	－	（空行）	SQHBKENP≠1	空白	L1249
14	通常	78～84	MID_SUR1「サーチャージ」	TENK_FLG	TENK_FLG=‘1’ なら半角「サーチャージ」（明細の転嫁料欄 78～83 の見出し）。それ以外は空行	L288～292、L1250～1252
15～47行目：明細（SQHANLIN が 00・90・91・98・99 以外かつ SQHADTID=0）MEISAI（L300～323、L1852～2144）						
明細	全	1～5・6・7～12	送り状番号	SQHCOKNO（11桁）	上5桁+‘-’+下6桁。0 なら空白	L1858～1866
明細	全	14～15 (S0 13)	元着 MEI_MCKB	SQHCMCKB	1=‘元’、2=‘着’、他は空白。検品明細は ‘検’	L1867～1875、L2074
明細	全	17～20	月日 MEI_MMDD	SQHCMMDD	0 なら空白	L1876～1878
明細	全	21～32	地名 MEI_CHNM	SQHCCHNM	そのまま（地名マスター参照はコメントアウト）	L1879～1913
明細	全	33～46	名称 MEI_SHNM	SQHCCHNM	そのまま	L1918、L1975
明細	全	47～51／52～57	個数／重量	SQHCKOSU／SQHCJRYO	‘Z...’ 編集（ゼロは空白、負は ‘-...9’）。税の扱い：①税分割（SQHAZKKB=0）かつ SQHAZKK1≠1＝税欄に表示し合計に含める、②SQHAZKK1=1＝税欄0、合計に含めない、③税込（SQHAZKKB≠0）かつ SQHAZKK1≠1＝運賃欄に「運賃+税」、税欄0	L1919～1924
明細	全	58～65／66～71／72～77	運賃／集配料／航送料	SQHCUNCN／SHUH／KOSO	税は上記①③のとき加算。負は ‘-----9’	L1925～1933、L2003～2021
明細	全	78～83／84～89／90～95／96～101／102～107／108～113	転嫁料欄（サーチャージ）／その他／税／保険料／立替／割引	SQHCDAIB／SONN／ZIKN／HOKN／TATE／WARI		L1934～1971
明細	全	114～121	合計 MEI_GOKEI	運賃+集配+航送+転嫁+保険+立替+その他+割引（+税）		L1949～2029

行	対象	桁	項目（変数）	編集元（入力項目・マスター）	編集ルール	根拠
明細	全	122～123／124～127／128～132	区分／店／備考	SQHCTSKB／SQHCTENS／SQHCBIKO	通常：区分・店・備考1～5。備考9～12桁が'KKKK'=店←備考1～4、備考←5～8（軽油引取税）。備考あり・区分空白（検品以外）＝区分←備考1～2、店←3～6、備考←7～10（「着」→ヲク、「必着」→ヒツヲク）	L2032～2068
検品明細	検品	47～57／58～69／70～83	KNP_MEISAI 個数・重量／「運送送状⇒」／TEL	SQHCSHNM の14バイト目=' ' かつ SQHCMCKB=2	個数・重量は'----9'（0も印字）。TEL＝SQHCTELN＋備考10～12桁	L375～386、L2070～2079
検品明細	検品	84～89／90～95／114～121／128～132	小計1／税／合計2／備考	運賃＋集配＋航送＋転嫁＋その他（＋税）／SQHCZIKN／全項目（＋税）	DEF で MEISAI に重なるため、96～113桁と122～127桁は通常明細の編集値が残る	L2080～2128
48～50行目：計（通常計 SQHANLIN=91／99、検品計 90／98）。KEI（L340～358）／KNP_KEI（L388～399）						
～47	計の前	－	（空行）	SQHDNSKP	LINE_CNT<47 なら（SQHDNSKP-1）行の空行で47行目まで送る（サーチャージ前は <48 で48行目まで）	L1269～1289、L1419～1439、L1462～1482
48	通常計	72～78	MID_SUR2「サーチャジ」	TENK_FLG='1'	LINE_CNT<48 のとき。計行の転嫁料欄（72～78）の見出し。LINE_CNT=48 にする	L293～297、L1440～1458
48	検品計	26～47	MID_KGO	－	「検品個数⇒ 有り 無し」。LINE_CNT=48 にする	L281～286、L1290～1308
49	ページ小計	6～15＋金額	KEI（91/3）	SQHDSQKB の1～10バイト（請求区分）	SQHDPKBN='1'（元着別）なら区分は空白。LINE_CNT=49	L1707～1847
49	検品小計	6～15＋金額	KNP_KEI（90/3）	－	区分欄に「検品料」	L1336～1337
49	合計ページ	－	（空行）	－	合計を出すとき LINE_CNT<49 なら空行1行	L1314～1332、L1489～1507
50	合計	24～35＋金額	KEI（99/3・99/9）見出し KEI_HED	SQHDHDID・SQHDPKBN・MOTCYA_WK	99/9＝送り状合計。99/3：HDID=0 で PKBN '0''7''8'＝送り状合計、'1'＝元払い計／着払い計／元着別計（直前明細の元着）、'2''3'＝請求区分計、'4'＝着地計、'5'＝着県計、'6'＝日付計、他＝「 計」。HDID=3 訂正計、2 支払変更計、9 検品料計、4～6 その他計、他「_____計」。LINE_CNT=50	L1509～1569、L1705
50	検品合計	24～35＋金額	KNP_KEI（98/3）	－	「検品料 計」	L1311～1335
49/50	計の金額	36～122	KEI の金額	SQHDKOSU～SQHDZIKN	個数36～41、重量42～48、運賃49～57、集配料58～64、航送料65～71、転嫁料欄72～78、その他79～85、税86～92、保険料93～99、立替100～106、割引107～113、合計114～122。税の扱いは明細と同じ3通り。明細行と桁位置がそろっていない（\$6）	L1572～1691、L1714～1833
49/50	検品計の金額	36～48・79～122	KNP_KEI の金額	SQHDKOSU・JRYO・SONN・ZIKN・HOKN・SONT・WARI	個数・重量は'----9'。その他欄（79～85）には KS60140P が運賃～その他を集約済み。計＝その他＋保険＋立替＋割引（＋税）	L1338～1391

3. 1行目の店所CD・2行目の集約代表コードの決め方

3.1 判定の手順（見出し1のたび）

- 荷主が前回と違うとき（UPRNNICD≠SYUKEY）だけ VKSYUPR を読み、OUT_SW・JITN_FLG を決める。JITN_FLG は UPRNASKB が空白なら '1'（自店所出力）、それ以外 '0'。続けて VKCORPO を読み、DISKEY（集約代表コード）を決める。L566～598
- 店所が前回と違うとき（VETNHTCD≠SQHATNCD）だけ VKTENMS を読み、ALTFILE のテーブル（TAB_PRTN、最大100件）に SQHATNCD があるか調べて PRTN_FLG を決める。無ければ（'0'）CALL LKN0010（SQHATNCD, MISYU_TC）で未収管理店を取る。L617～647
- OUT_SW='2' のとき、PRTN_FLG='0' かつ JITN_FLG='0' なら OT1TNCD を MISYU_TC に置き換えて書く。
L689～697

3.2 1行目 33～36桁（店所CD）の判定表

No	VKSYUPR	UPRNASKB	発行店が ALTFILE に	PRTN_FLG	JITN_FLG	1行目の店所CD	イメージ
1	無し	—	—	—	—	KS601522 に出ない（KS601521／523 へ）	
2	有り	'6'	—	—	—	どこにも出ない	
3	有り	空白	有り	'1'	'1'	発行店 SQHATNCD	
4	有り	空白	無し	'0'	'1'	発行店 SQHATNCD（自店所出力）	例3
5	有り	空白・'6' 以外	有り	'1'	'0'	発行店 SQHATNCD	例4
6	有り	空白・'6' 以外	無し	'0'	'0'	未収管理店 MISYU_TC（LKN0010）	例1・例2

- ALTFILE=ADG. ALTLIB（SEQPRTNC）（JCL L582）。各レコードの先頭4バイト ALT_PRTN を読む（L32～34、L527～542）。コメントは「集約店所CDを表示（自店で出力する被集約店除く）」（L628～629）なので、ALTFILE は自店で出力する店所の一覧と読める。
- LKN0010 はソースが無い（ブラックボックス）。JCL の MDMIKAN（VKAD. MISYUKAN. DTMASTER、JCL L591）を使うと推測。該当なしのときの戻り値は不明。
- この判定は KS601522 だけ。KS601521 は代表扱い店 DISTEN、KS601523 は発行店（L680～685）。KS60151P の送付用（KS601512）は同じ規則。

3.3 2行目 126～132桁（集約代表コード）

見出し1の状況	VKCORPO	2行目
その荷主の最初の見出し1	有り	CORPZAND（集約代表コード）
その荷主の最初の見出し1	無し	自荷主CD（SYUKEY）
同じ荷主の2回目以降の見出し1 （2ページ目以降、枝番違いの請求書）	有りでも	自荷主CD（D-11）

```
566 SYUKEY = SQNO_1_7 ;
567 DISKEY = SQNO_1_7 ;           <- 毎回 自荷主CD に戻す
568 IF UPRNNICD = SYUKEY         <- 前回と同じ荷主なら
569 THEN ;                       <- 何もしない
570 ELSE
571   DO ;
575     READ FILE(VKSYUPR) ... KEY(SYUKEY) ;
    ... (OUT_SW・JITN_FLG の決定)
590     READ FILE(VKCORPO) ... KEY(SYUKEY) ;
594     DISKEY = CORPZAND ;       <- ここは ELSE の中だけ
598   END ;
601 OT2HICD = DISKEY ;
```

D-11 の仕組み：VKSYUPR に有る顧客は READ が成功して UPRNNICD がその荷主CD になる。そのため同じ荷主の次の見出し1は L568 の THEN 側に入り、VKCORPO を読まない。DISKEY は L567 で自荷主CD に戻されたままなので、2行目は自荷主CD になる。VKSYUPR に無い顧客（KS601521／523）は READ が失敗して UPRNNICD が変わらないので、毎回読み直して正しい値になる。
帳票イメージの例1（1ページ目＝7000001）と例2（2ページ目＝3456789）で、この違いを示す。

引き継がれる値：L568 の THEN 側では OUT_SW・JITN_FLG も前回の値のまま、L618 の THEN 側では PRTN_FLG・MISYU_TC も前回の値のまま使う。同じ荷主・同じ店所が続く限りは結果は同じだが、間に別の荷主を挟むと問題になる場合がある（S6 No.2）。

4. 改ページ・行数制御

4.1 基本の考え方

- 改ページは入力データが決める。見出し1レコード（SQHANLIN=00・SQHADTID=5）ごとに、1行目を ASA '1' で書いて改ページする（L559～563）。プログラムは行数を数えて自分で改ページすることはない。
- LINE_CNT は「計の行をどこに出すか」の判定（47・48・49）だけに使う。1ページに何行の明細を載せるかは、上流（KS60144P）がページ番号 SQHANPAG・行番号 SQHANLIN・改行数 SQHDNSKP として作った値に従う（推測を含む）。
- ASA：'1' =改ページ、'0' =2行送り（直前に空行1行）、' ' =1行送り。空行は133バイトの空白レコード SPACE を書く（L462）。
- 本帳票はファイル全体で1つの連続した帳票。顧客ごとにファイルは分かれらない。

4.2 LINE_CNT の動き

処理	書く行	LINE_CNT	根拠
見出し1	OUT_1 (ASA '1')、OUT_2	0 → 2	L561、L701
見出し2 (1ページ目)	OUT_4 (ASA '0')～OUT_12	3 → 12	L797、L1199
見出し2 (2ページ目以降)	空行×7、OUT_10_2～OUT_12_2	9 → 12	L718～733、L783
13～14行目	MIDK_1／2、または空行+MID_SUR1（か空行）	+2 → 14	L1258
明細	MEISAI	+1（最大47）	L2143
通常計の前（TENK_FLG='1'）	LINE_CNT<47 なら空行×（SQHDNSKP-1）、<48 なら MID_SUR2	→ 48	L1416～1459
通常計の前（TENK_FLG≠'1'）	LINE_CNT<48 なら空行×（SQHDNSKP-1）	+空行数	L1460～1483
ページ小計（91/3）	KEI	→ 49	L1834～1847
合計（99/3・99/9）	LINE_CNT<49 なら空行、KEI	→ 50	L1489～1506、L1705
検品計（90/3・98/3）	<47 空行×（SQHDNSKP-1）、<48 MID_KG0、98 は <49 で空行、KEI	48 → 49／50	L1269～1405

LINE_CNT は 48・49・50 に強制的に代入される（L1307、L1331、L1457、L1506、L1705、L1847）。SQHDNSKP と実際に書いた明細の行数が合わない、印字位置と LINE_CNT がずれても補正されない（S 6 No. 6）。

4.3 1ページ（50行）の構成

行	1ページ目	2ページ目以降
1	見出し1：荷主CD・枝番・店所略称・店所CD・月・期間・ページ	同左（店所CD は前回の判定のまま）
2	集約代表コード（126～132桁）	同左。ただし D-11 で自荷主CD
3	空行（OUT_4 の ASA '0'）	空行
4	郵便番号・ご請求額	空行
5～9	顧客住所（5～8）・発行店名（6）・鑑の金額と店所〒（7）・店所住所（8～9）	空行
10～12	荷主名・銀行・店所住所3・店所TEL・振込区分・顧客TEL	荷主名だけ
13～14	検品：MIDK_1／MIDK_2 通常：空行+「サーチジ」（78～84桁）	
15～47	明細（最大33行）。足りない分は計の前に空行で埋める	
48	通常：「サーチジ」（72～78桁） 検品：「検品個数⇒ 有り 無し」	
49	ページ小計（請求区分）。合計だけのページは空行	
50	合計（送り状合計など／検品料 計）。小計だけのページは空き	

4.4 計の並び方の例

ページの最後のレコード	48行目	49行目	50行目
91/3（途中のページ）	サーチジ	ページ小計	（空き）
91/3 → 99/9（最終ページ）	サーチジ	ページ小計	送り状合計
99/3 だけ	サーチジ	空行	区分合計など
98/3（検品合計）	検品個数⇒…	空行	検品料 計

同じページで LINE_CNT=50 の後にさらに計レコードが来ると、ガードはすべて素通りして51行目（次の物理ページ）に書かれる。入力側で起きない前提と思われる（推測）。

OUTFIL2 SYSOUT=(E,KS601522,99) | 1行133バイト（ASA+132桁）・50行／ページ | 架空データによる再現イメージ（会社名・番号はすべて架空）

例1 未収管理店への置き換え（荷主 3456789・請求書1ページ目）

1	3456789	00021	架 空 中 央 支 店	2100①	10						26 09 01	26 09 30	1
2													②7000001
3													
4	999-0012									107,818			
5													
6	架 空 県 架 空 市												東 中 央 営 業 所
7	中 央 区 サ ン プ ル 町 1 丁 目 2 番 地				97952		97952	9776	90	107818	8142	〒 999-9001	
8	サ ン プ ル ビ ル 3 階											架 空 府 架 空 市 サ ン プ ル 町	
9												2 丁 目 3 番 4 号	
10	（ 株 ） サ ン プ ル 物 産					サ ン プ ル 銀 行	本 店 営 業 部	普 通	口 座 No.	1 2 3 4 5 6 7			
11		経 理 部				テ ス ト 信 用 金 庫	駅 前 支 店	当 座	口 座 No.	7 6 5 4 3 2 1			TEL:06-0000-0000 *
12		Tel 06-0000-1111											
13													
14													
15	04012-3000001	着	0901	金 沢 市	テ ス ト サ ン キ ャ ム	2	6	1540	220		154	191	2105 2104
16	04012-3000008	元	0901	高 松 市	サ ン プ ル シ ョ ウ シ ン	4	2	3080			308	110 349	3847 2104
17	04012-3000015	着	0902	高 松 市	テ ス ト サ ン キ ャ ム	4	6	1540			154	110 180	1984 2104
18	04012-3000022	元	0903	新 潟 市	タ ミ ー ト レ ー テ ン ク	1	23	2640	330		264	323	3557 2104
19	04012-3000029	元	0903	岡 山 市	タ ミ ー ト レ ー テ ン ク	1	25	1870	220		187	227	2504 2104
20	04012-3000036	元	0904	岡 山 市	カ ク ウ フ ツ サ ン	3	34	2200	220		220	264 30	2934 2104
21	04012-3000043	着	0905	仙 台 市	テ ス ト サ ン キ ャ ム	4	58	2200	330		220	275	3025 2104
22	04012-3000050	着	0905	仙 台 市	タ ミ ー ト レ ー テ ン ク	5	24	1540	220		154	191	2105 2104
23	04012-3000057	着	0906	札 幌 市	カ ク ウ フ ツ サ ン	5	18	2640	330		264	323	3557 2104
24	04012-3000064	元	0907	名 古 屋 市	ミ ホ ン シ ョ ウ カ イ	2	17	1540	220		154	191	2105 2104
25	04012-3000071	着	0908	大 阪 市	ミ ホ ン シ ョ ウ カ イ	5	52	2640			264	290	3194 2104
26	04012-3000078	元	0908	神 戸 市	タ ミ ー ト レ ー テ ン ク	4	48	980			98	107	1185 2104
27	04012-3000085	元	0909	新 潟 市	カ ク ウ フ ツ サ ン	3	45	1540	330		154	192 30	-100 2146 2104
28	04012-3000092	元	0910	札 幌 市	ミ ホ ン シ ョ ウ カ イ	2	28	1870			187	205	2262 2104
29	04012-3000099	着	0910	仙 台 市	テ ス ト サ ン キ ャ ム	1	58	2640	220		264	302	-100 3326 2104
30	04012-3000106	元	0911	大 阪 市	カ ク ウ フ ツ サ ン	4	42	2640			264	290	3194 2104
31	04012-3000113	着	0912	那 覇 市	サ ン プ ル シ ョ ウ シ ン	5	52	2200		550	220	297	3267 2104
32	04012-3000120	元	0913	京 都 市	サ ン プ ル シ ョ ウ シ ン	2	30	2200	220		220	264	2904 2104
33	04012-3000127	着	0913	高 松 市	タ ミ ー ト レ ー テ ン ク	6	13	3080	220		308	110 371	4089 2104
34	04012-3000134	元	0914	大 阪 市	テ ス ト サ ン キ ャ ム	1	45	1320	330		132	178	1960 2104
35	04012-3000141	元	0915	札 幌 市	ミ ホ ン シ ョ ウ カ イ	2	58	1540	220		154	191	2105 2104
36	04012-3000148	元	0915	広 島 市	ミ ホ ン シ ョ ウ カ イ	1	22	1540	330		154	110 213	2347 2104
37	04012-3000155	着	0916	高 松 市	ミ ホ ン シ ョ ウ カ イ	4	8	1540	220		154	191	2105 2104
38	04012-3000162	元	0917	岡 山 市	サ ン プ ル シ ョ ウ シ ン	5	40	1540			154	110 180	1984 2104
39	04012-3000169	着	0917	福 岡 市	テ ス ト サ ン キ ャ ム	6	36	3080	330		308	361	-100 3979 2104
40	04012-3000176	着	0918	金 沢 市	タ ミ ー ト レ ー テ ン ク	5	33	1870			187	205	2262 2104
41	04012-3000183	元	0919	名 古 屋 市	タ ミ ー ト レ ー テ ン ク	1	41	3080	330		308	371	4089 2104
42	04012-3000190	着	0920	熊 本 市	タ ミ ー ト レ ー テ ン ク	3	41	1320	330		132	178	1960 2104
43	04012-3000197	元	0920	高 松 市	ミ ホ ン シ ョ ウ カ イ	4	4	1870			187	205	2262 2104
44	04012-3000204	元	0921	神 戸 市	テ ス ト サ ン キ ャ ム	3	21	2200			220	242	2662 2104
45	04012-3000211	元	0922	名 古 屋 市	サ ン プ ル シ ョ ウ シ ン	1	52	1870	330		187	110 249 30	2776 2104
46	04012-3000218	元	0922	福 岡 市	サ ン プ ル シ ョ ウ シ ン	6	16	2640	330		264	323	3557 2104
47	04012-3000225	着	0923	仙 台 市	テ ス ト サ ン キ ャ ム	1	18	1870		550	187	260	2867 2104
48										サ ー チャ ー ジ			
49	通 常 便				106 1016	67860	5830	1100	6786	660 8179	90	-300 90205	
50													

① 1行目33～36桁：発行店 2101 は ALTFIL2 (SEQPRTNC) に無く (PRTN_FLG='0')、UPRNASKB='1' で自店所出力でもない (JITN_FLG='0') ので、LKN0010 が返す未収管理店 2100 に置き換わる (L630～646、L692～693)。18～31桁の店所略称は発行店のまま。

② 2行目126～132桁：この荷主の最初の見出し1なので VKCORPO を読み、集約代表コード 7000001 が出る (L587～601)。3行目は OUT_4 の ASA '0' による空行。明細33行 (15～47行目)、48行目「サチャジ」、49行目ページ小計、50行目は空き。

行番号は ASA 制御文字 ('1' 改ページ、'0' 2行送り、' ' 1行送り) を解釈した印字行。S0/SI は空白1桁として表示。桁目盛りは印字桁 (ASA を除く1～132桁)。税は「税分割・税表示」 (SQHAZKKB=0、SQHAZKK1=0) の場合で再現。

OUTFIL2 SYSOUT=(E,KS601522,99) | 1行133バイト（ASA+132桁）・50行／ページ | 架空データによる再現イメージ（会社名・番号はすべて架空）

例2 同じ荷主の2ページ目（D-11 の現象）

1	3456789	00021	架空中央支店	2100	10	260901	260930	2
2								2
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10			（株）サンプル物産					
11			経理部					
12								
13								
14								
15	04012-300232	元	0924	福岡市	テストサンキョウ	1	49	2640
16	04012-300239	着	0925	高松市	テストサンキョウ	3	18	980
17	04012-300246	元	0925	京都市	ミホンシヨウカイ	1	37	1870
18	04012-300253	元	0926	岡山市	サンフールシヨウシ	3	31	1150
19	04012-300260	元	0927	札幌市	カクウフツサン	1	29	1540
20	04012-300267	元	0927	那覇市	サンフールシヨウシ	6	58	3080
21	04012-300274	元	0928	広島市	ミホンシヨウカイ	5	21	1150
22	04012-300281	元	0929	広島市	カクウフツサン	4	28	1150
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
31								
32								
33								
34								
35								
36								
37								
38								
39								
40								
41								
42								
43								
44								
45								
46								
47								
48								
49	通常便							
50	送り状合計							

① 1行目：荷主も店所も前回と同じなので判定をやり直さず（L568・L618 の THEN 側）、前回と同じ 2100 が出る。
② 2行目：UPRNNICD=荷主CD のため VKCORPO を読まず、L567 で戻した自荷主CD 3456789 が出る（D-11。1ページ目と同じ 7000001 になるべき）。3～9行目は空行、10～12行目は荷主名だけ（L715～784）。明細8行の後、空行で47行目まで送り、49行目にこのページの小計、50行目に送り状合計。

5. 帳票イメージ 現行出カイメージ (KS60152P) 3 / 4 ページ

例3 自店所出力 (UPRNASKB=空白)・集約代表コードなし

② VKCORPO に無いので自荷主CD 8887776 (L597。仕様とおりで D-11 とは別)。4行目の郵便番号は旧5桁 99902 から「999-02」(L804~816)。銀行1つ (L1005~1018)、振込区分なし。

行番号は ASA 制御文字（'1' 改ページ、'0' 2行送り、' ' 1行送り）を解釈した印字行。S0/SI は空白1桁として表示。桁目盛りは印字桁（ASA を除く1～132桁）。税は「税分割・税表示」（SQHAZKKB=0、SQHAZKK1=0）の場合で再現。

OUTFIL2 SYSOUT=(E,KS601522,99) | 1行133バイト（ASA+132桁）・50行／ページ | 架空データによる再現イメージ（会社名・番号はすべて架空）

例4 検品料の請求書（SQHBKENP=1）・ALTFILE に登録された店所

1	5550001	00031	サンプル西店	4001①	10	260901	260930	1
2								②7000002
3								
4	999-7712				5,445			
5								
6	架空県サンプル市						サンプル西店	
7	西区ダミー町2番3号	4950	4950	495	5445		〒999-7703	
8							架空県サンプル市西区	
9							にし通り3丁目10番	
10			テスト信用金庫 西支店				サンプル西ビル1階	
11	(株)ダミー工業			当座	口座番号 3456789		TEL:092-000-0000 *	
12		TEL 092-000-3333						
13	* * 検品			検品個数		検品料		
14	* * 月日	* * * *	* * * * *	有り無し	*****			
15	検 0905	仙台市	ケンビ`ンリョウ	- 12 0	運送送状⇒ 0920001234101	660 66	726	4001KP001
16	検 0911	名古屋市	ケンビ`ンリョウ	- 30 0	運送送状⇒ 0920001234102	1650 165	1815	4001KP002
17	検 0917	神戸市	ケンビ`ンリョウ	- 8 0	運送送状⇒ 0920001234103	440 44	484	4001KP003
18	検 0923	高松市	ケンビ`ンリョウ	- 24 0	運送送状⇒ 0920001234104	1320 132	1452	4001KP004
19	検 0929	那覇市	ケンビ`ンリョウ	- 16 0	運送送状⇒ 0920001234105	880 88	968	4001KP005
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
31								
32								
33								
34								
35								
36								
37								
38								
39								
40								
41								
42								
43								
44								
45								
46								
47								
48			検品個数⇒	有り無し				
49								
50			検品料 計	90 0	4950 495	5445		

① 発行店 4001 は ALTFILE に登録あり（PRTN_FLG='1'）なので置き換えない（L634～646）。② この荷主の最初の見出し1なので集約代表コード 7000002（同じ荷主の通常分が先に出ていれば、ここも D-11 で自荷主CD になる）。13～14行目は検品の見出し MIDK_1／2、明細は KNP_MEISAI で上書き（「検」「運送送状⇒」TEL）、48行目「検品個数⇒…」、49行目空行、50行目「検品料 計」（L1202～1224、L2070～2128、L1263～1405）。荷主名が1行なので11行目に繰り下げ（L949～954）。

6. 注意点・要確認事項

No	区分	内容	根拠	確認・対応の提案
1	要確認	D-11：同じ荷主の2回目以降の見出し1（2ページ目以降、枝番違いの請求書）では、2行目が集約代表コードではなく自荷主CDになる。VKSUPR に有る顧客だけに起きるので、影響するのは KS601522 だけ。	L566～601	不具合として直すか、現行どおり（Java 移行でも同じ動き）にするかを業務で判断。2行目を集約の振分けに使っているなら影響が大きい（推測）。
2	要確認	状態の持ち越し：VKSUPR の READ が失敗しても UPRNNICD は前の値のまま。そのため「荷主A（登録あり）→ 未登録の荷主だけが続く → 再び荷主A」という並びでは、2回目の A は L568 の THEN 側に入り、OUT_SW が直前の未登録荷主の '1' のまま残る。A の請求書が KS601522 ではなく KS601521／523 に出る（2行目も自荷主CD）。入力は年月・店所・連番の順（SQHAKEYB）で、同じ荷主が別の店所で再登場することありうる（推測）。	L568～598、L575～576	入力の並び（KS60144P）で同じ荷主が離れて出ることがあるか確認。移行時は荷主が変わるたびに状態を作り直す設計にする。
3	注意	2ページ目以降の荷主名（10～12行目）は、全角・カナに関係なく SO/SI を付ける。1ページ目は全角名のときだけ付ける（2012.10.10 の修正が2ページ目以降に入っていない）。カナ名の顧客では2ページ目以降の荷主名が DBCS として解釈され、文字化けする可能性がある（推測）。KS60151P も同じ。	L736～744、L925～948	実帳票でカナ名顧客の2ページ目を確認。
4	注意	計の行（KEI）と明細行（MEISAI）は金額の桁位置がそろっていない（例：運賃は明細58～65桁、計49～57桁）。「サーチ」の見出しも14行目は78～84桁（明細の転嫁料欄）、48行目は72～78桁（計の転嫁料欄）と別の位置。プレ印刷の帳票様式に合わせた配置と推測。KS60151P も同じ。	L300～323、L340～358、L288～297	Java 移行で「そろえる」修正をしないこと。様式の原本で確認。
5	注意	検品明細は KNP_MEISAI を MEISAI に DEF で重ねて上書きするため、96～113桁（保険料・立替・割引）と122～127桁（区分・店）には通常明細として編集した値が残る。	L375～386、L2070～2128	移行時にもこの重ね方を再現する。
6	注意	改ページと計の位置は入力（SQHAKEYB の並び、SQHDNSKP）に依存する。LINE_CNT は 48・49・50 に強制設定されるので、明細の行数と SQHDNSKP が合わないと、計が47行目より上に出たり、50行を超えて次の物理ページにはみ出したりする。	L1269～1308、L1416～1506、L1705、L1847	KS60144P のページ割り仕様と合わせて確認。
7	注意	ALTFILE が101件以上あると、TABCNT=101 で読み込みを止めるが、検索ループは II=1～101 まで回り、範囲外の TAB_PRTN(101)を参照する。また ALTFILE を2回 OPEN している（2回目は効果なし）。	L514、L527、L531～541、L634～642	SEQPRTNC の件数と上限を確認。
8	要確認	LKN0010 はソースが無い。未収管理店の決め方と、該当が無いときの MISYU_TC の値（前回値が残るのか、0 か）が分からない。MDMIKAN はプログラムに宣言が無く、LKN0010 が使うと推測。	L417～418、L645、JCL L591	LKN0010 のソース・仕様を入手する。
9	要確認	1行目の51～52桁は SQHAYYMM の1～2桁。項目名は「年月」だが、印字しているのが年か月か、SQHAHYMD=250105 のときだけ '01' にする特例の意図が分からない。帳票イメージは KS60151P の手本に合わせて「10」とした。	L651～653	KS60144P での SQHAYYMM の作り方を確認。
10	注意	明細不要の顧客（UPRNASKB='6'）は本帳票を含めどこにも出ない。1行目57桁に '#' を付ける処理（L655～657）は KS60152P では使われない死にコード。	L579～580、L655～657	差異分析の要確認 No.2 と同じ。
11	注意	ハードコード：店所1301 の TEL（L1146～1147）、サーチ開始日 080919（L707）、月の特例 250105（L651）。	L651、L707、L1146	移行時は設定値として外出しを検討。
12	注意	本帳票は SYSOUT に直接出力するため、ステップを再実行すると事業所へ二重に配信される。RC を設定する処理（PLIRETC）も無い。	JCL L594	差異分析 §2.3 と同じ。